

帝京科学大学  
IR報告書  
2021





## 目次

帝京科学大学 IR 報告書 2021 の発行について .....	1
帝京科学大学 教学インスティテューショナル・リサーチ室について .....	2
教学 IR 要件厳格化の動向について .....	3
GPA 経年変化の検討について .....	6
2021 年度の活動について .....	11
データ編 .....	12
データ編の概要 .....	12
学科別・学年別 GPA の分析 .....	13
卒業生アンケートデータ分析 .....	23
帝京科学大学 教学インスティテューショナル・リサーチ室規程 .....	29

## IR 報告書 2021 の発行について

---

本年度も 2021 年度の教学に関するデータとその分析、IR 関連情報を報告させていただき、教育研究に関する諸活動へのご活用に供する運びとなりました。

コロナウイルスによる影響が当初の予想を超えて長期化し、2021 年度中には遠隔授業の対応も多くありました。今回のデータからは遠隔授業の可能性や限界など見えてきた部分が多くあります。大学教育における遠隔授業など ICT の活用が推進されている中、今後、感染状況が改善した場合においても今回の分析は意義を有していくものと考えられます。今後の感染状況や授業形態の変化をみながら、今回のデータを活かして頂けましたら幸いです。本 IR 室におきましても継続的に分析を進めていきたいと考えております。

帝京科学大学 教学 IR 室長 内藤可夫



## 帝京科学大学 教学インスティテューショナル・リサーチ室について

---

本帝京科学大学 教学インスティテューショナル・リサーチ室（以下、教学 IR 室）は「帝京科学大学教学インスティテューショナル・リサーチ室規程（後掲）」に基づき、恒常的に IR を行う組織として設置され、教学 IR 室運営会議（学長、副学長、学長補佐、教務部長、学生部長、学部長、学科長、総合教育センター長、教職センター長、医学教育センター長、事務局長、課長及び東京西事務室長、教学 IR 室員により構成）において活動の協議を行い、具体的 IR 活動に関しては教学 IR 室員からなる教学 IR 室会議において計画の立案と実施、及び検証を行う組織となっております。

自己点検・評価体制の改善整備を行った 2018 年度の規程改定以降、帝京科学大学の質保証体制のための調査とデータ収集の見直しを行い、2018 年度からは専任職員を配置。教学 IR 室会議において体制の整備とデータの収集及び分析手法に関する検討を進めてまいりました。

現下、3つポリシーの検証に必要なデータの検討、収集の体制の構築過程にあります。さらに、適切な指標、評価法を研究するとともに、データベースの構築を行い、経年変化の検証、分析とこれを通じた IR 活動の有効性の検証、ならびに学内組織とのコミュニケーションを含む教学 IR システムの整備を行うべく、教学 IR 室の活動体制を構築することを目指しております。

教学インスティテューショナル・リサーチ室 室員

室長 内藤可夫 教授

室員 内藤隆宏 講師

高金彰信 係長

鉄井俊宏 主任

# 教学 IR 要件厳格化の動向について

教学 IR 室 内藤隆宏

## はじめに

日本の大学においては、IR (Institutional Research) 活動がより重要となってきた。文部科学省の教学マネジメント指針においても、IR 体制と活動の確立が前提と示されている。現在は、IR 活動の実態の有無から一歩進み、活動の質・量が問われる段階にある。そして、文部科学省の私立大学総合改革支援事業においても、年々 IR に求められる要件は厳格化しつつある。

本稿では、私立大学等改革総合支援事業調査票のタイプ 1 「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」に記載される、IR に関する項目の令和 3 年度と令和 4 年度を比較し、その内容がどのように変更されているのかを比較する。現時点においては、上述の要件は、本支援事業に応募する大学のみを対象とした評価項目であるが、将来的には、全大学に対してこの基準が要求されるようになると考えられる。したがって、早期よりこれを理解し、IR 活動の充実に努めていくことは、本学の教育の質保証に対しても有益であると考えられる。

※以下、アンダーラインと太字で示した部分が新年度、更新された文言にあたる

① 学長を中心とした、副学長・学長補佐、学部長及び専門的な支援スタッフ等からなる全学的な教学マネジメントの体制において、 <u>効果的・効率的な教育課程の運営のために</u> 、必要な教職員の業務内容の整理・点検を実施の上、以下の取組が行われていますか。	
A) IR 情報を活用し、教育課程の適切性の検証と教育改善を行うサイクルを運用している。	
B) 大学全体レベル、学位プログラムレベルで大学教育の成果をアセスメントプランに則り点検・評価を実施している。	
1. 上記全ての取組を実施している。	2 点
2. 上記のうち A もしくは B の取組を実施している。	1 点
3. いずれも実施していない。	0 点

「効果的・効率的な教育課程の運営」 の語句が追加されたことで、IR 情報の合理的な活用が、より一層高いレベルで求められるようになりつつある。

② <u>大学等における IR 機能強化に向けた取組を実施していますか。</u>	
1. IR の他大学等への普及に向けた取組の実績がある	3 点
2. IR に関する外部研修会に講師として参加した実績がある	2 点
3. 定期的に受講させており、受講した実績がある。	1 点
4. 上記のいずれにも該当しない。	0 点

本項目では IR 担当者の質的担保が求められており、R3 年度に記載されていた 「定期的ではないが、

**受講した実績がある。1点**」が削除され、そのほかの項目の点数についても、各1点減じられている。このことによって、IR担当教職員に定期的な教育を施すことが求められ、担当者の教育レベルが厳しく判断されるようになった。

③ 学生の課程全体を通じた成長実感・満足度等について測定するため、卒業時のアンケート調査等を実施し、調査分析結果について公表していますか。	
1. 卒業生に対し <b>85%以上の回収率</b> で実施し、調査分析結果を公表している。	3点
2. 卒業生に対し <b>50%以上の回収率</b> で実施し、調査分析結果を公表している。	1点
3. 上記のいずれにも該当しない。	0点

本項目は前年度より変更はない。本学の卒業時アンケートの回答率は50%に満たない回収率となっており、回収率向上のためには、回答に対して、何らかの強制力やインセンティブを持たせる仕組みが必要であると考えられる。

⑦ 成績評価において全学部等で GPA 制度を導入するとともに、GPA を用いて以下のア～エのいずれかの取組を実施していますか。	
ア 成績不振者に対する個別学修指導の実施	
イ 進級判定又は卒業判定	
<b>ウ 授業科目履修者に求められる成績水準の設定</b>	
エ 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化の取組	
1. 全て実施している。	3点
2. アを含む3つについて実施している。	2点
3. アを含む2つについて実施している。	1点
4. 上記のいずれにも該当しない。	0点

本項目は前年度より変更はないが、「**授業科目履修者に求められる成績水準の設定**」については本学 IR 室で実施している年間の GPA 分析だけではなく、授業科目毎に分析を行うことが求められてくる。すなわち、データ取得方法および分析方法などを検討していくことが望まれる。

② 入学者選抜の妥当性を高めるため、入学後の学修状況等を調査したうえで、入学者選抜の妥当性を検証していますか。	
1. <b>全ての入試区分について検証している。</b>	<b>2点</b>
2. 一部の入試区分で検証している。	1点
3. 検証していない。	0点

本年度より「**全ての入試区分について検証している**」の得点が **3点から2点へ減点**された。これはアドミッション・ポリシーの評価が厳格されたといえる。本項目の要件で記されている検証とは、次のように調査票に記されている。「**入学後の学修状況等を調査したうえで、入学者選抜の妥当性を検**

証]とは、入学後の学修状況等（入学後の学生の成績、成績以外の学修成果、留年・中退率、卒業後の進路等など）の調査結果から、受験生と在学生のクロス分析を行うなど入学者選抜の妥当性について検証を行っていること。検証の対象者は、2年次以上の在生もしくは卒業生であること。本学ではこれらの分析こそ個別になされているが、統合的に分析されていない。したがって、上記を踏まえた手法について検討していくことが望まれる。

<p>② 統計解析等や IR に関する知識を有し、学生に関する様々なデータの収集・分析を実施し、<u>機関決定等に資する提案又は情報の提供を行うための専門職</u>を配置するとともに、<u>教学 IR を担当する組織・部局の概要（大学組織上の位置づけ等）及び実施している教学 IR の主な内容（分析事例の紹介や、教学 IR をきっかけとする教学改善の事例の紹介など）</u>をホームページなどで情報公開していますか。</p>	
1. <u>配置し、情報公開している。</u>	3点
2. <u>配置している。</u>	2点
3. 配置していない。	0点

本項目は大幅に文章が追加された。追加された部分は下線で示された部分であり、新しく「配置し、情報公開している。」の項目が新設され 3点になったが、「配置している。」の得点が 3点から2点へ減点された。これらの変更および追加は、教学 IR の実態および活動内容の周知の姿勢が、より問われるようになったといえる。

## おわりに

ここまで見てきたように、私立大学総合改革支援事業では教学 IR の運営体制、IR 情報の活用、IR 担当者の教育受講実績、アンケート回収率、アドミッション・ポリシーの評価、活動報告などの評価項目については、それぞれ基準の厳格化が進んでいる。ゆえに、全学的な教学マネジメントを行っていく上では、質保証にかかる中核組織1つとして、IR 活動の合理化、および高度化が強く求められている。これらは一朝一夕で対応できるものではなく、日々の IR 活動を継続的に発展させていく必要が求められている。

## 参考文献

1. 令和4年度 私立大学等改革総合支援事業調査、[https://www.mext.go.jp/content/20230210-mxt\\_sigakujo-100001428\\_9.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230210-mxt_sigakujo-100001428_9.pdf)、閲覧日（2023年2月10日）
2. 令和3年度 私立大学等改革総合支援事業調査、[https://www.mext.go.jp/content/20220217-mxt\\_sigakujo-100001428\\_9.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220217-mxt_sigakujo-100001428_9.pdf)、閲覧日（2023年2月10日）



# GPA 経年変化の検討について

教学 IR 室 内藤隆宏

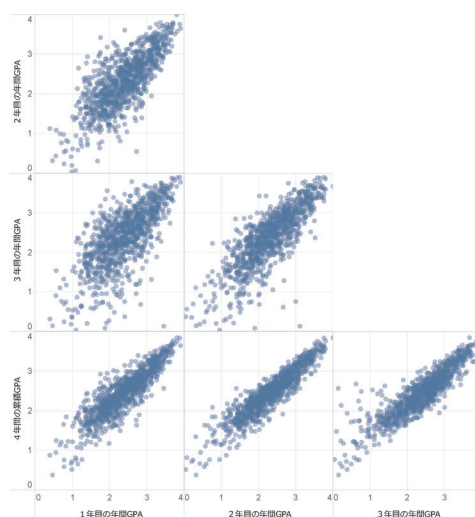
## はじめに

本稿では、学生の学修が円滑に行われているかどうかを評価するため、入学後の成績の経時的変化を検討する。具体的には、学位プログラムの評価となる4年間の累積 GPA について、どの学年と関連があるのかを検討した。分析の対象は新型コロナウイルス感染症の影響が最も少ないと考えられる2017年度入学者（休学者・退学者は除外）とした。この2017年入学者の1年目の年間 GPA、2年目の年間 GPA、3年目の年間 GPA、および4年目の累積 GPA（1年目から4年目の年間 GPA を累積したもの）の相関について、全学部、および生命環境学部・医療科学部・教育人間科学部の3学部をキャンパス毎に分けて、散布図および相関係数を求めることで分析を行った。

本分析において、GPA 分布は正規性を仮定できないため、相関係数はノンパラメトリックの検定である Spearman の順位相関係数により検討した。得られた相関係数は表のようになり、すべて正の相関であり統計的に有意 ( $p < .01$ ) であった。統計分析には SPSS を使用した。

## 全学

1年目と3年目の年間 GPA 散布図を定性的に参照すると、対角線下側にある点がやや多くなっている。このことは、たとえ1年目の成績が良好であっても、3年目には成績が低下する学生がある程度いることを示している。ゆえに、3年目に履修する発展的な専門科目において、成績がやや落ち込む学生が多くいることが示唆される。一方で、3年目の年間 GPA と4年次累積 GPA の散布図においては、対角線上側の点がやや多い。このことは、3年目の成績が落ち込む学生が存在していることを示している。4年目累積 GPA と1年目、2年目、3年目の年間 GPA との相関係数はそれぞれ0.877、0.926、0.898であり、とりわけ2年目の成績が卒業成績となる4年目の累積 GPA に影響していることを示唆している。



全キャンパス 全学部

### 千住キャンパス 生命環境学部

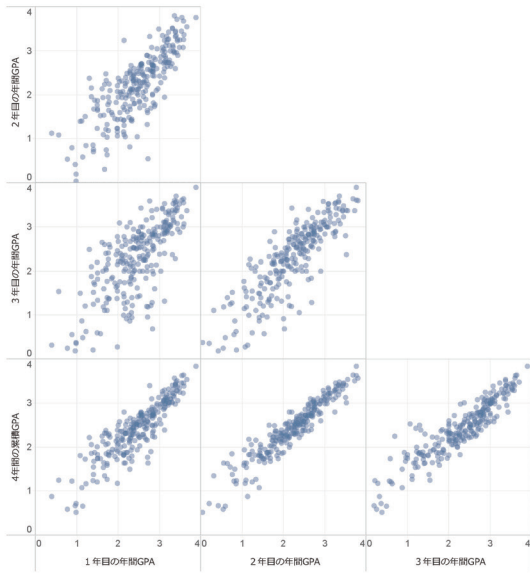
1年目の年間と2年目の年間、および1年目の年間と3年目の年間のGPA散布図は双方ともに、対角線下側の学生がやや多くなっている。このことから、1年目の初年次教育よりも、2年目以降に本格的に行われる専門教育の成績が落ち込む学生が存在することが推察できる。4年目累積GPAと1年目、2年目、3年目の年間GPAとの相関係数はそれぞれ0.882、0.953、0.916であり、とりわけ2年目の成績が卒業成績となる4年目の累積GPAに影響していることを示唆している。

### 千住キャンパス 医療科学部

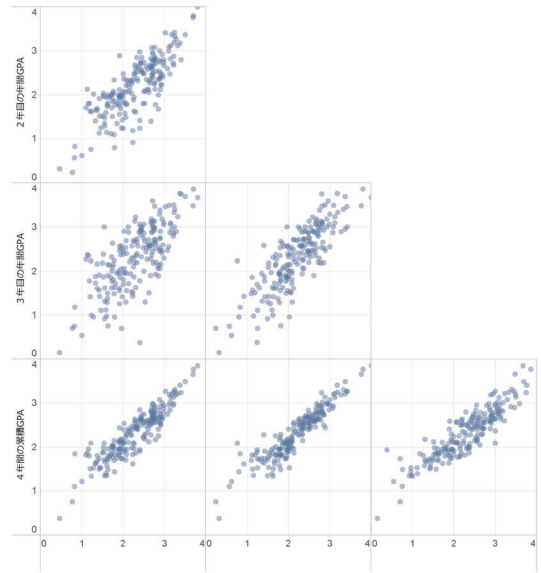
1年目の年間と2年目の年間、および1年目の年間と3年目の年間の各年間GPAの散布図は、ともに対角線上側の学生が多くなっている。これは1年目の初年次教育よりも、専門教育が本格的に行われる2年目および3年目の成績のほうが高くなっている学生が多いことを示している。2年目から本格的に始まる専門教育において、1年目よりGPAが高くなっていることは、専門教育の学習への移行が、適切になされていることが示唆される。4年目累積GPAと1年目、2年目、3年目の年間GPAとの相関係数はそれぞれ0.826、0.905、0.913であり、学年進行に応じて累積GPAへの影響が高くなる傾向が見られる。

### 千住キャンパス 教育人間科学部

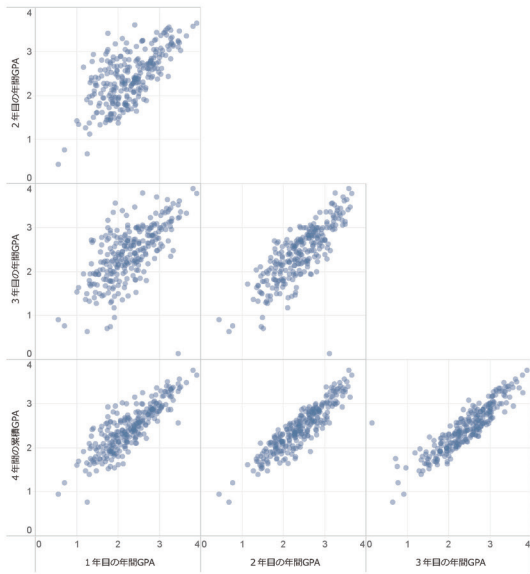
1年目と2年目の年間GPAの散布図において、対角線下側の学生はあまり多くない。その一方で、1年目と3年目、および2年目と3年目の各年間GPAの散布図においては、対角線下側の学生が多くなっている。これは3年の主な履修科目で専門応用科目の学習において、成績が伸び悩む学生がいることを示唆している。4年目累積GPAと1年目、2年目、3年目の年間GPAとの相関係数はそれぞれ0.916、0.942、0.882であり、とりわけ2年目の成績が卒業成績となる4年目の累積GPAに影響していることを示唆している。



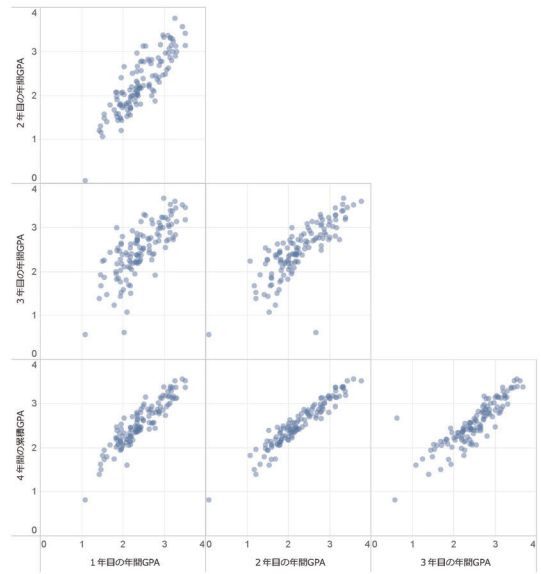
千住キャンパス 生命環境学部



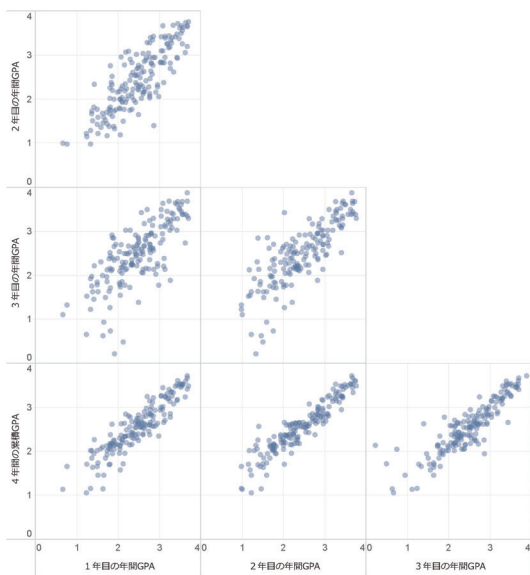
東京西キャンパス 生命環境学部



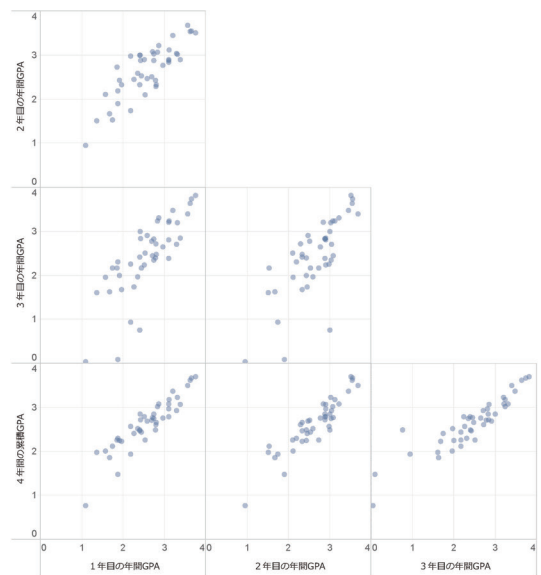
千住キャンパス 医療科学部



東京西キャンパス 医療科学部



千住キャンパス 教育人間科学部



東京西キャンパス 教育人間科学部

## 東京西キャンパス生命環境学部

1年目と2年目、および1年目と3年目の年間GPAの散布図においては、対角線下側の学生が多い。これは2年目から本格的に行われる専門科目の成績が下がった学生があることを示している。一方で、2年目と3年目の年間GPAの散布図では対角線下側の学生が少ないことから、2年目の成績が落ち込まなければ、3年目はあまり成績を下げずに学修が継続できることを示している。4年目累積GPAと1年目、2年目、3年目の年間GPAとの相関係数はそれぞれ0.916、0.942、0.882であり、とりわけ2年目の成績が卒業成績となる4年目の累積GPAに影響していることを示唆している。

## 東京西キャンパス医療科学部

1年目と2年目および1年目と3年目の年間GPAの散布図においては、対角線上側の学生が多い。これは1年目の初年次教育よりも専門教育が本格的に行われる2年目および3年目の成績が高くなっている学生が多いことを示している。2年目以降の専門教育は、1年目と比べて成績が落ち込むことなく、専門教育の学習が行えたことを示している。4年目累積GPAと1年目、2年目、3年目の年間GPAとの相関係数はそれぞれ0.911、0.955、0.893となっており、とりわけ2年目の成績が卒業成績となる4年目の累積GPAに影響していることを示唆している。

## 東京西キャンパス教育人間科学部

1年と2年目および1年目と3年目の年間GPAの散布図においては対角線付近の学生が多い。これは1年目の成績が、2年目以降の成績と変わらないことを示している。一方で2年目と3年目の年間GPAの散布図では対角線下側の学生が多いことから、2年目と比べて3年目に学修する、発展的な専門科目の成績が落ち込む学生があることを示している。4年目累積GPAと1年目、2年目、3年目の年間GPAとの相関係数はそれぞれ0.921、0.900、0.908となっており、とりわけ1年目の成績が卒業成績となる4年目の累積GPAに影響していることを示唆している。

## まとめ

本稿ではそれぞれのキャンパスの学部毎に、GPAの経時的変化の関係を検討した。たとえ同じ学部であっても、キャンパス間で学科構成が異なることから、単純なキャンパス間の比較には限界があることについては留意したい。

その上で、医療科学部を除く学部の特徴として、1年目と比べて2年目の年間GPAではある程度、成績の落ち込む学生がいる。これは高校学習の延長である1年目の学修から、より発展的な内容となる2年目以降の学修への移行に対して、適応することができない学生が存在するためと考えられる。医療科学部のそれが、他学部と異なった要因については、2年目以降に学修する科目特性の違いなどが影響している可能性があり、継続して検討する。



表：GPA の相関係数

学部	キャンパス	1年目の年間	2年目の年間	3年目の年間	
		GPA	GPA	GPA	
2 年 目 の 年 間 G P A	全学部	0.747			
	生命環境学部	千住	0.804		
		東京西	0.780		
	医療科学部	千住	0.610		
		東京西	0.863		
	教育人間科学部	千住	0.821		
東京西		0.772			
4 年 目 の 年 間 G P A	全学部	0.706	0.817		
	生命環境学部	千住	0.723	0.853	
		東京西	0.704	0.823	
	医療科学部	千住	0.651	0.808	
		東京西	0.767	0.838	
	教育人間科学部	千住	0.753	0.816	
東京西		0.851	0.737		
累 積 G P A	全学部	0.877	0.926	0.898	
	生命環境学部	千住	0.882	0.953	0.916
		東京西	0.903	0.934	0.887
	医療科学部	千住	0.826	0.905	0.913
		東京西	0.911	0.955	0.893
	教育人間科学部	千住	0.916	0.942	0.882
東京西		0.921	0.900	0.908	

現在のところ、一つの要因として考えられることは、学生が進学する専攻を選択する際のミスマッチである。すなわち、1年目は初年次共通科目が多く、上述のミスマッチを意識することなく学習していたが、2年目以降においては、本格的に専門科目を学習することになるため、ミスマッチがある場合は、それが意識されることとなり、学修継続のモチベーションの低下となることで、成績の低下に繋がったことが考えられる。

また、近年では就職や国試の結果などにより強く影響する指標として、専門科目の成績のみを対象としたGPAを算出する大学が増えている。本稿の分析においても、専門性がより強い医療科学部が他の学部と違った特徴を示しており、専門科目に着目した分析をするなどの工夫が、今後求められよう。したがって、本学において専門科目GPAを求める際の課題や利点などについては、今後さらなる検討が必要であると考えられる。

## 2021 年度の活動について

---

毎月（原則月 2 回） 教学 IR 室会議

### 2021 年

入学試験区分別 GPA 分析

成績分布表作成（下位 1/4 GPA 基準値）

教学 IR 室運営会議（9 月 14 日）

### 2022 年

卒業生アンケート（3 月 7 日～ 3 月 30 日）

『帝京科学大学 IR 報告書 2020』発行

### その他

#### ● IR 室員外部研修

・ MJIR2021 第 10 回（11 月 12 日～ 14 日）

・ Excel 研修全 8 回（1 月）

【Excel 2019 基礎編】 Excel の基礎知識、データ入力、表の作成、数式の入力、複数シートの操作、表の印刷、グラフの作成、データベースの利用、便利機能（検索・置換）

【Excel 2019 応用編】 関数の利用、表作成の活用、グラフの活用、グラフィックの利用、データベースの活用、ピボットテーブルとピボットグラフの作成、マクロの作成、便利な機能（ブック間の集計、クイック分析など）

・ その他

#### ● データベース構築作業及び調査

#### ● データ分析環境（ソフトウェアなど）調査検討

#### ● 政策動向調査

# データ編

## データ編の概要

2021年度に収集されたデータのうち、GPAの学科別・学年別統計及び卒業生アンケートの統計データの概要・分析を紹介します。本教学IR室におきましては、GPAに関しては授業科目やその種別、学部、学科、入試形式など多くの属性に関するデータと合わせての分析を試行し、その意味や意義の検証・分析と研究を行っております。ここにその一部としてGPAデータ、卒業生アンケートデータとその分析の概要をご報告します。

4年生のGPAデータについては、学科によるカリキュラムの違いなどがあって分析に馴染まない点があり、今後、カリキュラム改革の進展により4学年並列の分析が有効と判断された際に報告に加える予定です。卒業生アンケートについては、2020年度報告書のデータとの比較において分析しております。

## 学科別・学年別 GPA の分析

---

以下に1年生から3年生までのGPA（積算ではなく、単年度の平均）の分布に関する分析を、学科ごとに示します。4年生についてはカリキュラム上の問題や学科ごとの条件に関する大きな違いを考慮し、割愛しております。

### 生命環境学部

#### 生命科学科（千住）

共通科目の履修が多い1年生（2021年入学）については、概ね全学の平均に近くなっている一方で、2年生以降については特徴的な分布となっている。2年生は成績上位者が特に少なくなっている。また、3年生は2の前後を頂点としており、上位者は一定数存在するが、全学の平均と比較してこちらもGPAが低くなっている。成績基準と学生の学修時間や能力（高校での履修科目を含む）、カリキュラムに原因が考えられる。順次性を考慮した科目内容と基準の調整、配置を考慮する必要が考えられる。

#### アニマルサイエンス学科（千住）

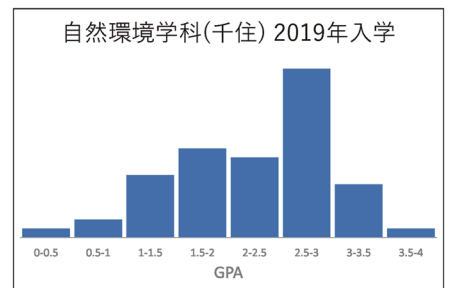
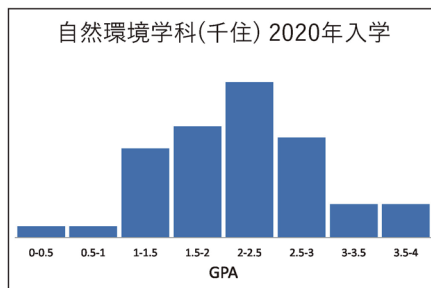
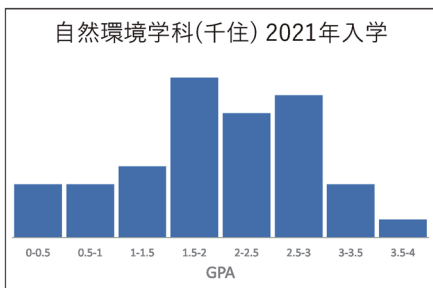
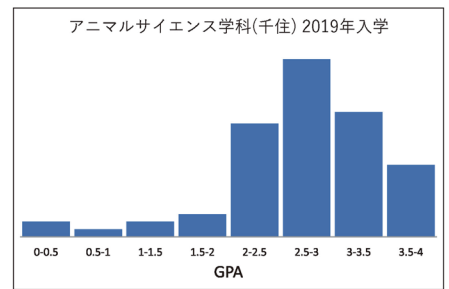
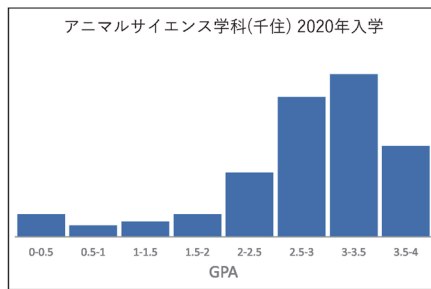
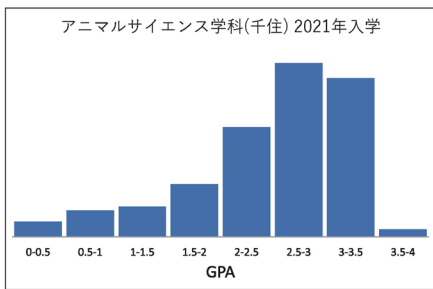
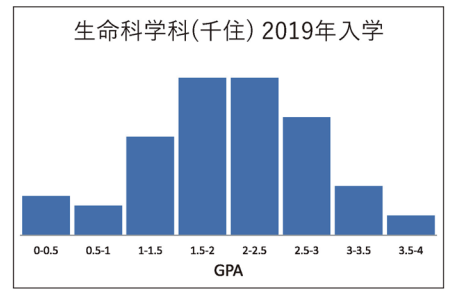
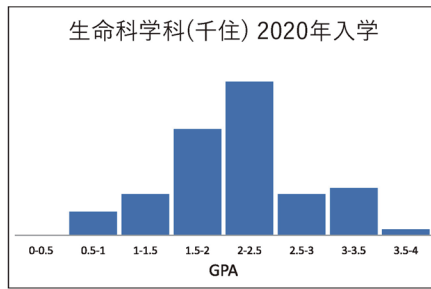
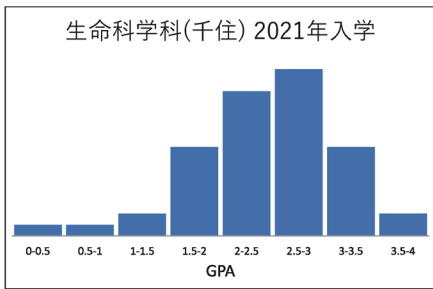
同学科の東京西キャンパスの学生との間に大きな違いは認められないが、特に成績の高い学生がやや少ない。1年生に成績の特に低い学生がいて注意を要する点も同様。

2年生の成績が～3.5に偏っている点は、母数の大きさから考えて特定の理由があると推定される。つまり、成績評価に優への偏りがあったと推察される。コロナ対応の課題中心授業の傾向とも考えられる。

#### 自然環境学科（千住）

全般に成績下位者がやや多い。1年生については～3.0が特に多い。ほぼ優で固めた学生が多かったということだが、1年次取得科目には全学共通科目が多いことを考えると、他の学科に比べそつのない学習を行う傾向があったと考えられる。

2年生については～3.0に山があり、広がっているように見えるが、3.5～がゼロとなっており、特に良いGPAの学生が少ない。秀を与えることについては厳しいものの、それ以下の評価についてはコロナの状況下における学生の学修環境を考慮して評価点が高くなったものと考えられる。同様の傾向が3年生にもみて取れる。



## 生命環境学部

### 生命科学科（東京西）

母数が少ないためグラフが統計的に収束せず、個別の条件や事情によって不規則な形になっているが、問題点をいくつか見出すことができる。

成績下位の学生が1年生と3年生に目立っている。1年生は全体に成績がやや低めの傾向がある。対して2年生は～3.5というかなり高い数値が最も多くなっている。3年生に～2.0以下が多くなっていることには注意が必要と考えられる。

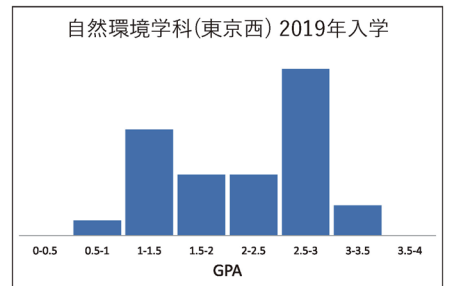
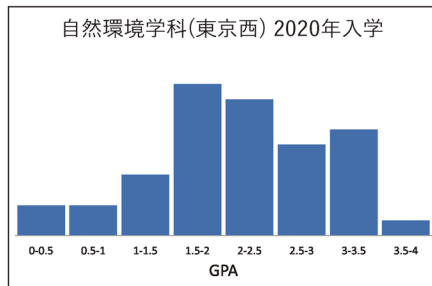
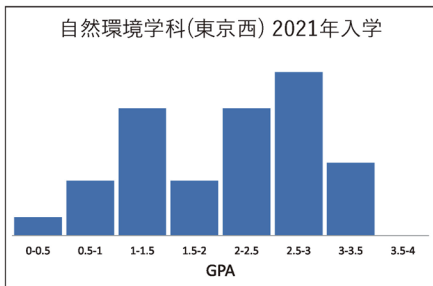
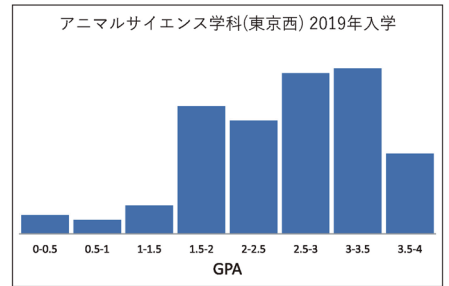
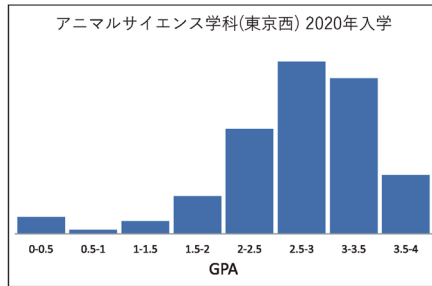
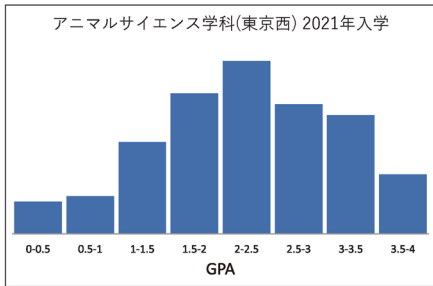
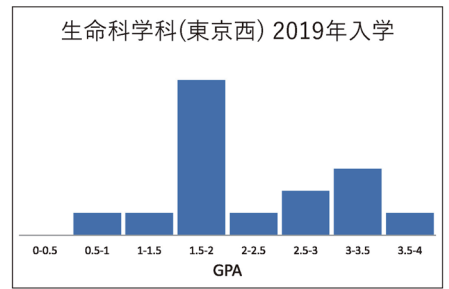
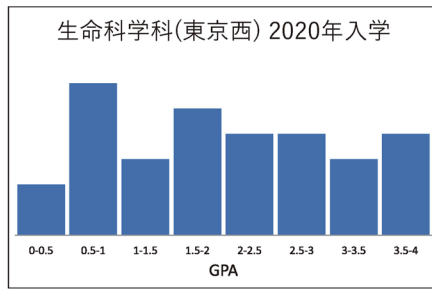
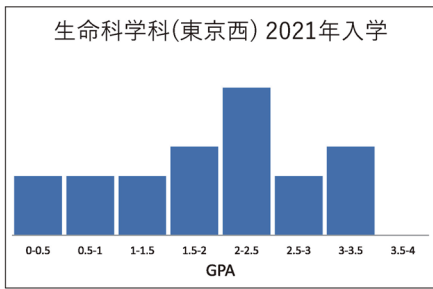
これらの傾向は学生の基礎学力、学習意欲、そして各科目の成績基準の相関で生じるが、コロナウイルスの影響という今年度の特別の状況を考えるならば、勤勉性が大きな要因となっているものと予測できる。つまり、成績下位の学生は授業の履修の自己管理が難しかった可能性がある。さらに取得単位数が少ない学生との相関を考慮する必要がある。

### アニマルサイエンス学科（東京西）

分布の中心が～3.5となってかなり高い反面、1年生の～0.5が特に多い他、2年生にも成績下位者が多く見られる。～2.0を積算するとかなりの数になるが、この下位への分布は学習能力以外の理由が存在することを考慮する必要がある。コロナの状況下での受講環境、学修環境のほか、所属学生の遠隔授業における興味・関心低下の問題も考えられる。

### 自然環境学科（東京西）

全学ないしは学部全体のヒストグラムと比べて成績下位者が特に目立っている。共通科目の多い1年生のGPAは平均に近い形になっているが、2年生、3年生はGPAの山が低くなっており、特に3年生は～2.0以下が多くなっている。GPAは履修登録科目数が分母になっており、履修放棄をした科目が多くなると自ずと数値が低くなるため、取得できた単位については低くない可能性もある。その場合には、履修放棄をせずに登録を取りやめる手続きを行うよう指導する必要がある。





## 医療科学部

### 東京理学療法学科（千住）

1年生は全学のデータとほぼ同じ形になっているが、2年生については～3.5が特に多く、成績の基準がやや甘い科目が多いことも考えられる。～3.5についてはほとんど優と秀で、半数以上が優ということになる。ちなみに3.5～については半数以上が秀であり、そのほかはほぼ優という学生になる。遠隔授業を要因として概ね大学全体に0.5上昇してはいるが、東京理学療法学科の2年生については優もしくは秀の評価となっており、良および可がほとんど与えられていないことになる。母数は多いため特異な分布の形はそのまま授業レベルと評価基準を反映したものと考えることができるが、2年時に取得する科目の授業レベルと評価基準について注意する必要がある。到達度の正確な測定と公正な評価という観点から、形式や条件、そして結果について分布するのが公正と考えられる。

### 東京柔道整復学科（千住）

昨年に比してGPAが全体に0.5上昇している。3年生についてはやや～3.5が多いが、全学年通じて標準的な分布傾向にあり、成績評価が良好に行われていることが推定される。極端にGPAの低い学生がほとんどいないのは、授業放棄をした学生がいなかったためだと考えられる。遠隔授業の影響と考えられるGPAの全体的な上昇以外のところでは、ヒストグラムに特別に指摘できる点はない。

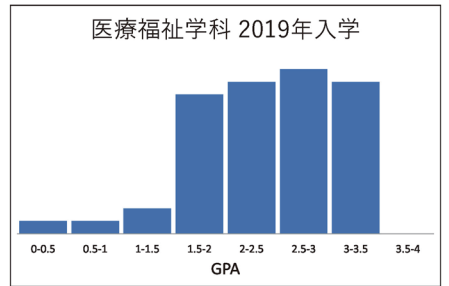
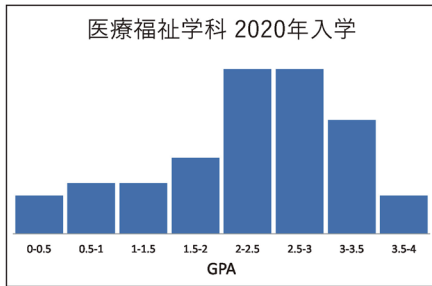
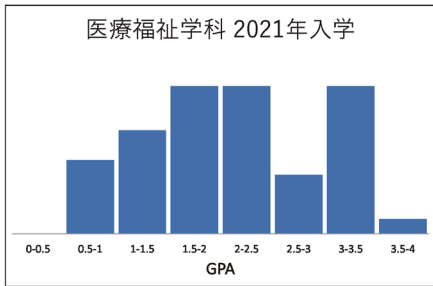
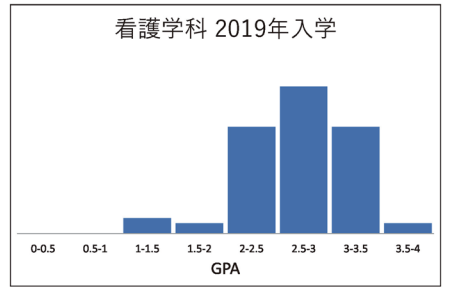
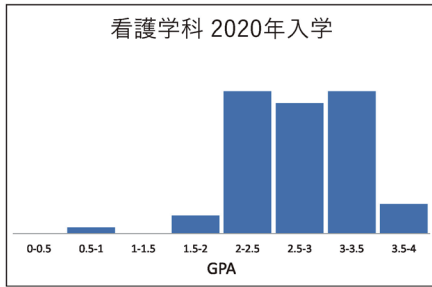
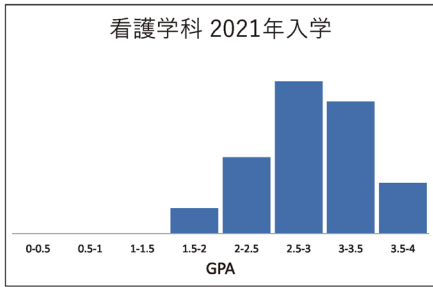
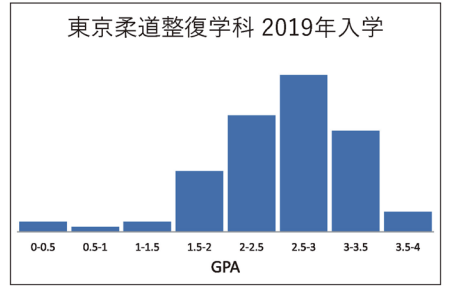
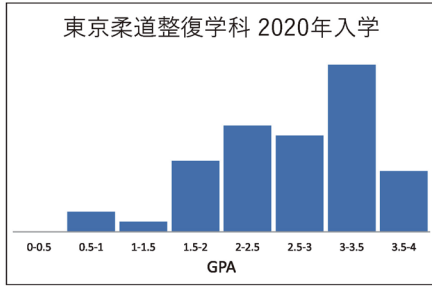
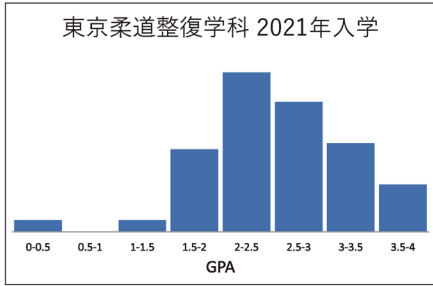
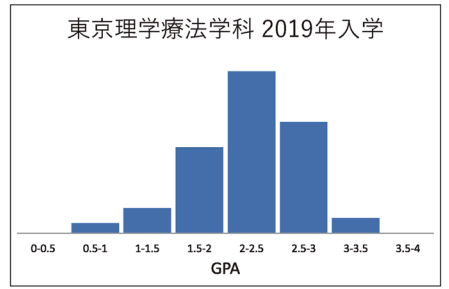
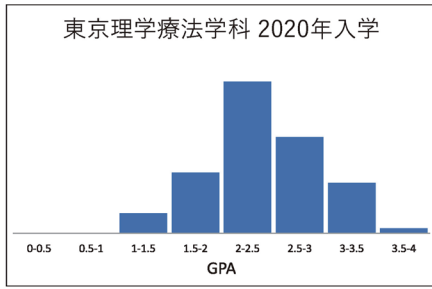
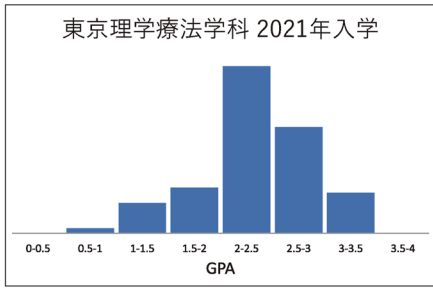
### 看護学科（千住）

全体的にGPAが高くなっているが、特徴としては他の学科に比べ1年生のGPAの分布の中心が～3.5と高くなっていることがあげられる。遠隔授業の特性からすると、定められた課題を適切に行う勤勉性が成績に影響すると考えられるが、共通科目が多くある1年生の成績がよいのは、この勤勉性に優れた学生が多いことが理由として考えられる。

### 医療福祉学科（千住）

1年生から3年生については、分布の形は3.0～を中心として形は標準的であるが、GPAの特に低い学生が含まれている。これらの学生に対するケアが必要と考えられる。～1.0以下の学生についてはほとんどの授業放棄と考えられるが、～2.0、～1.5の学生については、一部科目の授業放棄ないしは成績の低迷と考えられる。後者については基礎学力や学習習慣に関する支援が必要と考えられる。





## 医療科学部

### 理学療法学科（東京西）

全学の平均とほぼ同じ、ないしはそれよりも上位に成績が偏った分布になっている。共通科目の受講が一定数ある1年生については全学平均と同様だが、2年生では成績の山が～3.5というかなり高いところにあり、3.5～という学生もかなりの数、存在する。3.5～は半分以上が秀となる場合の数字であるので、多くの科目の成績評価基準ないしは授業の難易度が原因となっている可能性がある。ただし、授業放棄者が全学年にわたって存在していないので、学習意欲や勉学への姿勢が高いレベルであることは認められる。

### 作業療法学科（東京西）

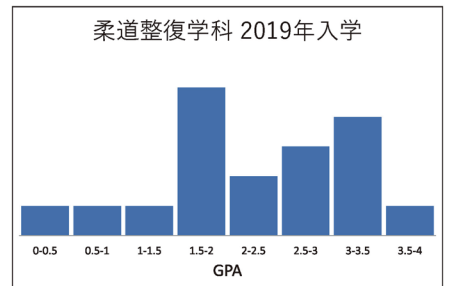
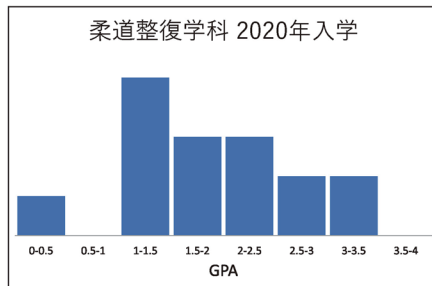
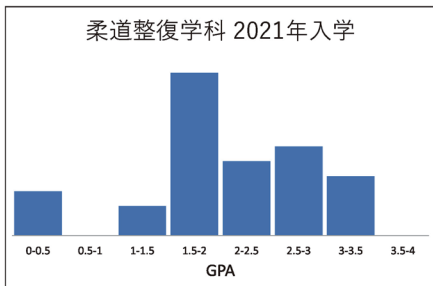
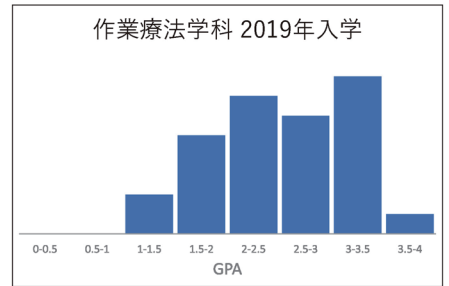
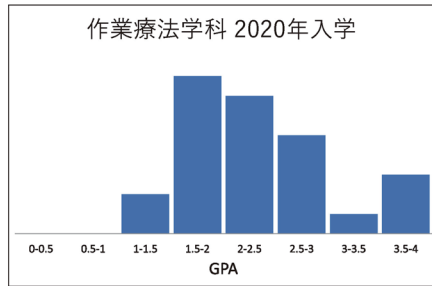
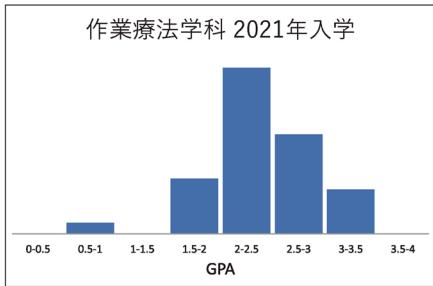
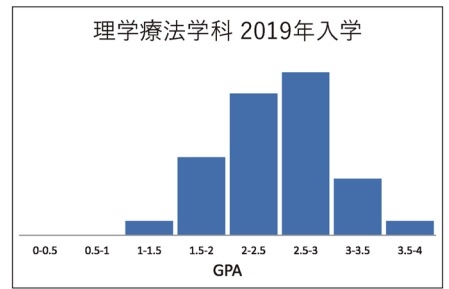
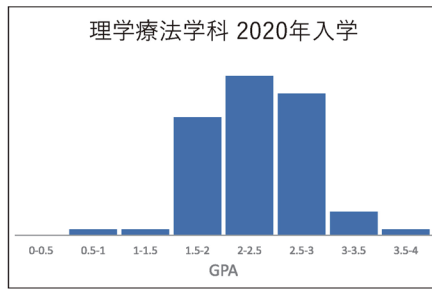
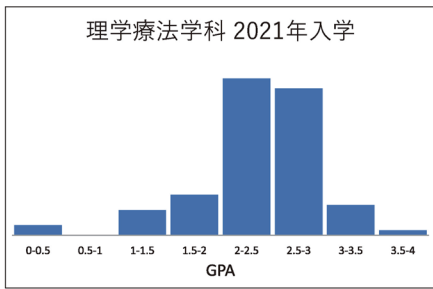
1年生は全学の分布に近く、2年生、3年生は分布の山がより高い方へ移っている。3.5～の学生が特に多く、授業放棄などの成績が低い学生はほとんど見られない。遠隔授業の影響と考えられるGPAの全体的な上昇以外のところでは、ヒストグラムに特別に指摘できる点はない。

### 柔道整復学科（東京西）

1年生はほぼ全学の平均と同じ分布の形が見られる。

2年生は～3.5以上がほとんど存在しない。これに対して、3年生は～3.5が最も多くなっている。これについては、やはり偏った結果が出ているということになるが、母数が少ないために必ずしも分布の形が統計的に意味を持っているとは言えない可能性がある。

しかしながら、統計的な意味とは別に成績の特に低い学生の状況についての分析は意義を有している。全学年にわたりわずかながらGPAの低い学生があり、～1.0以下は授業放棄の状態にあると考えられる。



## 教育人間科学部

### 幼児保育学科（千住）

全体的な傾向は3学年にわたり全学のものとは大きく相違していない。

2年生に1.0以下の授業放棄と考えられる学生が多く見られる。2年生に～3.5が多く、2年時配当科目に成績基準についてやや甘いものが多い可能性がある。それ以外については、このヒストグラムのみからは大きな問題は見られない。

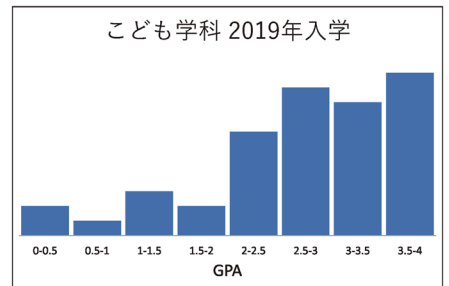
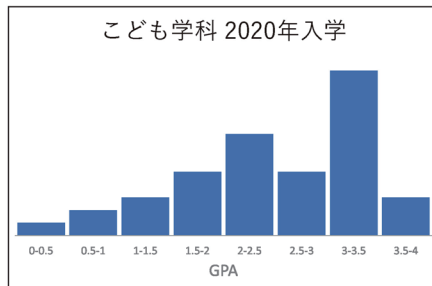
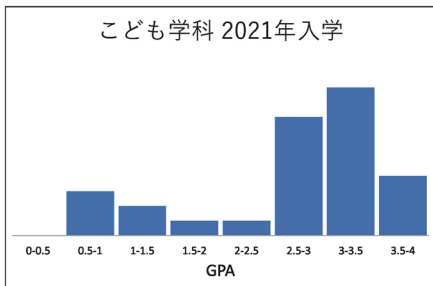
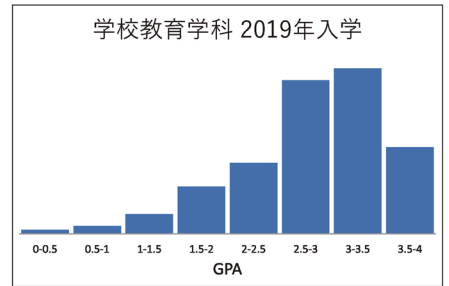
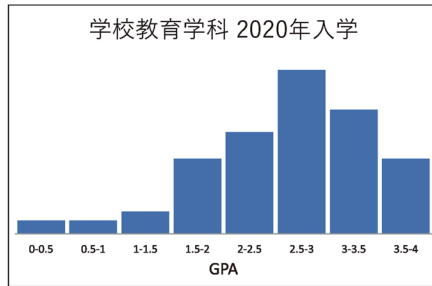
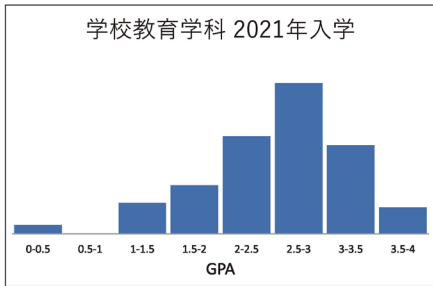
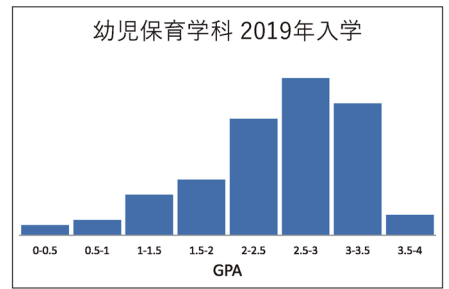
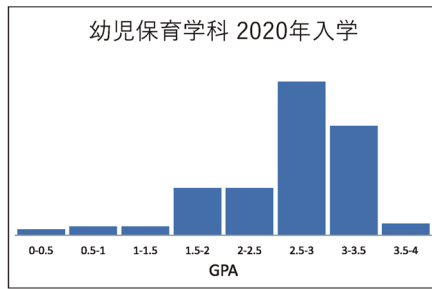
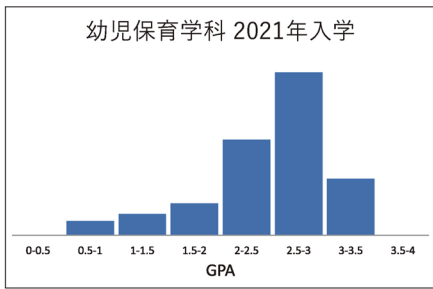
### 学校教育学科（千住）

カリキュラムの異なる4コースが存在するため、詳細な分析は難しいが、全体的には全学の傾向とほぼ一致していると考えられる。

学年が進むに従い、GPAの頂点が高くなっていく傾向にあるが、実習など配置されている科目の特性も現れていると考えることができる。少数ながら授業放棄と考えられる学生が存在するため、対応が必要と考えられる。それぞれのコースのヒストグラムについて分析することにより、それぞれのカリキュラムや成績基準の問題について確認ができると考えられる。

### こども学科（東京西）

1年生から3年生にわたる少数の学生が～1.0以下となっている点については注意が必要と考えられる。1年生については成績にばらつきがあるが、概ね良好と言える。2年生については3.5～が極端に多くっており、ほとんど秀のみの学生が多数ということになる。各科目の性格にもよるが、成績評価基準について確認する必要がある。3年生についてもかなり高い成績の学生が多いが、ある程度抑制されている。学科の中にコースが2つあるため、それぞれの分析を行うことで、それぞれの傾向性の違いやカリキュラム上の問題を確認することができるのではないかと考えられる。



## 卒業生アンケートデータ分析

---

### 概要

今回の卒業生アンケートに際してはQRコードの事前配布などの工夫をおこなったが、前回に比較して回答数が減少する結果となった。アンケート方法（キャンパススクエアによる）は変更せず改善策を講じたにも拘らずの結果であるため、周知に失敗したということではなく、別の要因を考える必要がある。特に一昨年来のコロナウイルスの感染状況からの遠隔授業に加え、授業アンケートをはじめ多くのアンケートを学生に求められるようになって、解答への負担感が増していることは容易に推察できる。成績評価に関係する（と学生が考えている）アンケート以外の、優先度が低いアンケートへの回答率は低くなる傾向にあると考えることができる。

#### (1) 「実践的な問題解決能力」は身につきましたか？

昨年度と大きな傾向性の違いはない。数値的には2%改善している。

#### (2) 「倫理的判断能力」は身につきましたか？

「身についた」が6%減少し、「ある程度身についた」が増加している。

#### (3) 「知情意（知性と感情と意志）のバランスが取れた健全な人格」は身につきましたか？

「身についた」が3%増加し、「身につかない」、「あまり身につかない」が減少している。

#### (4) 「生命の尊厳、自然との共生の意義」について理解できましたか？

「身についた」が7%増加し、否定的評価が減少している。

#### (5) 「社会的使命」について自覚することができましたか？

「自覚することができた」が5%増加している。

ここまでの評価については良い方に5%前後の変化となっている一方、グラフの構成からは大きな変化は読み取れない。回答数の減少が影響した考えることもできる。今年度以降、回答率を上げることでのどのような変化が見られるか注視する必要がある。

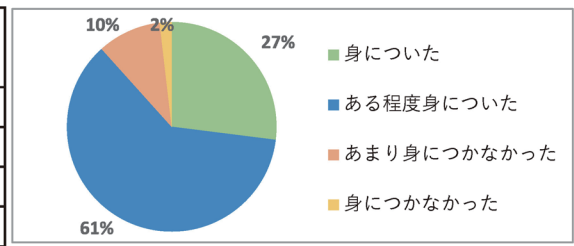
#### (6) 「広く深い教養」は身につきましたか？

ほぼ変化なし。

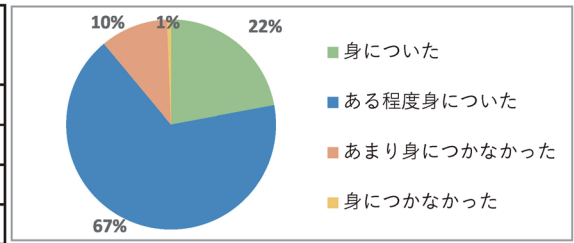
#### (7) 「卒業後、専門的知識や能力を自分で学び更新していく能力」は身につきましたか？

「身についた」が4%増加している。

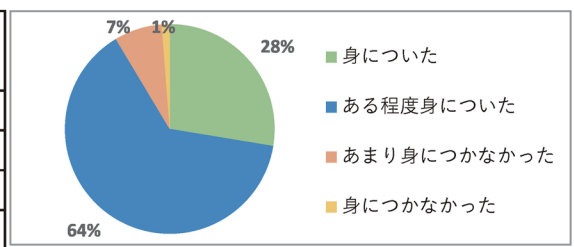
(1) 「実践的な問題解決能力」は身につきましたか？	
身についた	44
ある程度身についた	100
あまり身につかなかった	16
身につかなかった	3



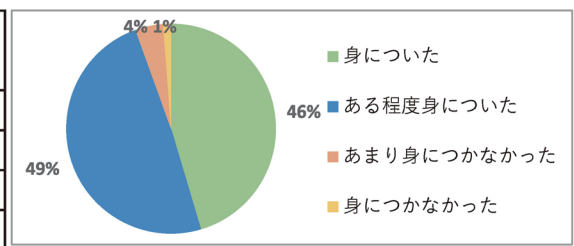
(2) 「倫理的判断能力」は身につきましたか？	
身についた	36
ある程度身についた	109
あまり身につかなかった	17
身につかなかった	1



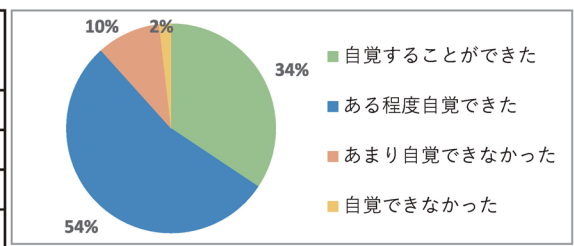
(3) 「知情意（知性と感情と意志）のバランスが取れた健全な人格」は身につきましたか？	
身についた	45
ある程度身についた	104
あまり身につかなかった	12
身につかなかった	2



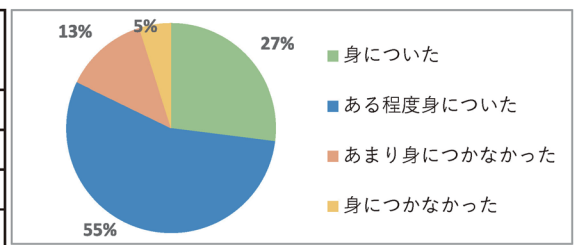
(4) 「生命の尊厳、自然との共生の意義」について理解できましたか？	
身についた	74
ある程度身についた	80
あまり身につかなかった	7
身につかなかった	2



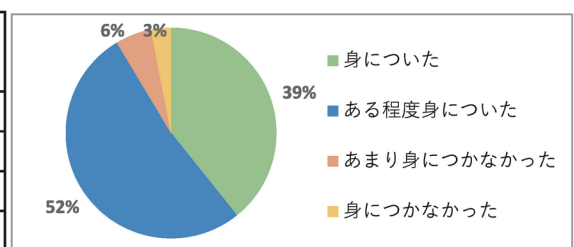
(5) 「社会的使命」について自覚することができましたか？	
自覚することができた	56
ある程度自覚できた	88
あまり自覚できなかった	16
自覚できなかった	3



(6) 「広く深い教養」は身につきましたか？	
身についた	44
ある程度身についた	90
あまり身につかなかった	21
身につかなかった	8



(7) 「卒業後、専門的知識や能力を自分で学び更新していく能力」は身につきましたか？	
身についた	64
ある程度身についた	85
あまり身につかなかった	9
身につかなかった	5



**(8) 「物事を批判的に分析し考える能力」は身につきましたか？**

「身についた」が8%減少。同時に、「あまり身につかなかった」が5%減少。倫理的判断力の肯定評価減少と併せて考えると、具体性をもって検証することが難しい能力についてはより厳しく自己判定しているものと考えられる。

**(9) 「学部・学科・コースの専門分野に関する知識と能力」は身につきましたか**

「身についた」が5%増加。具体性のある知識や技能についての評価は概ね5%最高評価が増加している。

**(10) 「学部・学科・コースの専門分野に関する職業能力」は身につきましたか？**

「身についた」が2%減少。「あまり身につかなかった」が4%増加。前項と同様の傾向か。ここまでのところ、概ね高評価である。

**(11) 「コミュニケーション能力」は身につきましたか？**

高評価がやや減少している。

**(12) 「プレゼンテーション能力」は身につきましたか？**

肯定評価全体が増加。否定的な評価がやや多いが改善が見られる。学修機会の変化（対面授業の増加など）が影響か。

**(13) 「外国語能力」は身につきましたか？**

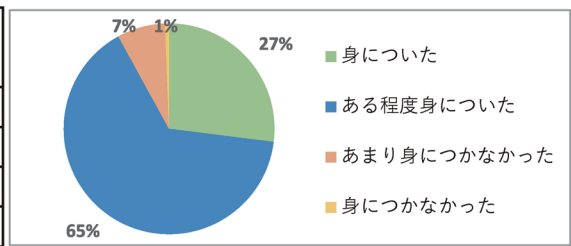
全体の中で最も否定的評価が多いが、しかし、「身につかなかった」の11%減少など数値は改善している。大きな傾向性が変わらないが、今後、語学カリキュラムの改善の影響について注視していきたい（結果が見えるのは3年後）。

**(14) 「情報活用能力」は身につきましたか？**

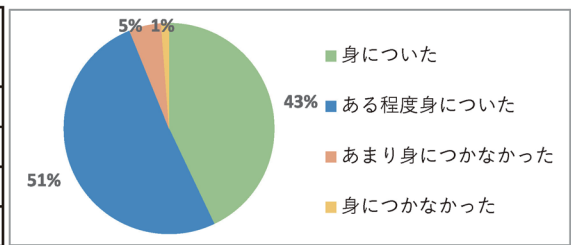
否定的評価が10%減少。非対面授業の増加により、リテラシーの向上が見られたものとも考えられる。



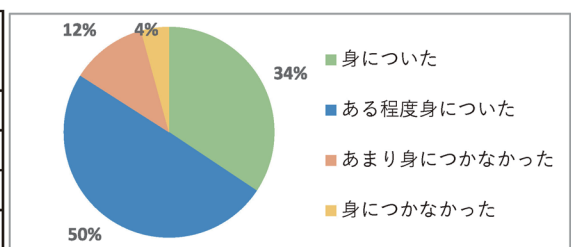
(8) 「物事を批判的に分析し考える能力」は身につきましたか？	
身についた	44
ある程度身についた	106
あまり身につかなかった	12
身につかなかった	1



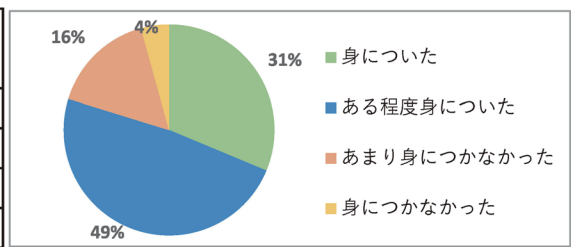
(9) 「学部・学科・コースの専門分野に関する知識と能力」は身につきましたか？	
身についた	70
ある程度身についた	83
あまり身につかなかった	8
身につかなかった	2



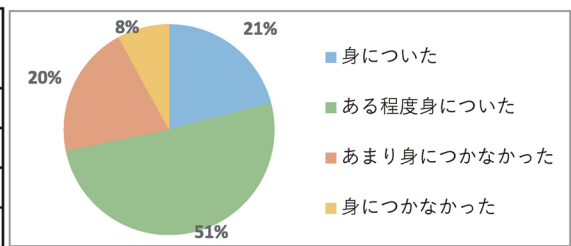
(10) 「学部・学科・コースの専門分野に関する職業能力」は身につきましたか？	
身についた	56
ある程度身についた	81
あまり身につかなかった	19
身につかなかった	7



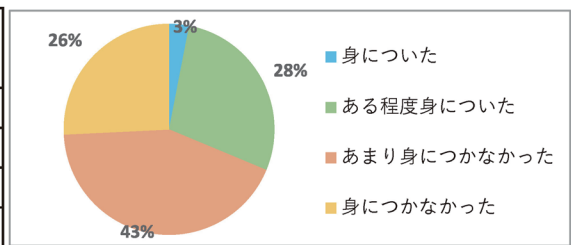
(11) 「コミュニケーション能力」は身につきましたか？	
身についた	51
ある程度身についた	79
あまり身につかなかった	26
身につかなかった	7



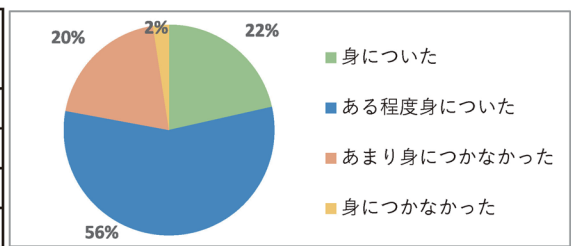
(12) 「プレゼンテーション能力」は身につきましたか？	
身についた	34
ある程度身についた	83
あまり身につかなかった	33
身につかなかった	13



(13) 「外国語能力」は身につきましたか？	
身についた	5
ある程度身についた	46
あまり身につかなかった	70
身につかなかった	42



(14) 「情報活用能力」は身につきましたか？	
身についた	35
ある程度身についた	92
あまり身につかなかった	32
身につかなかった	4



**(15) 「教育設備・施設」についての満足度を教えてください。**

否定的評価が8%減少。改善策の成果のほか、コロナ禍による便宜の問題が改善したものとも考えられる。

**(16) 「福利厚生施設」についての満足度を教えてください。**

7% 否定的評価が減少。前項と同様の理由が考えられる。

**(17) 「教員の対応」についての満足度を教えてください。**

全体的に僅かに改善。他の項目の全体が改善している傾向から見ると、実質的な改善については十分ではないと考えられる。

**(18) 「職員の対応」についての満足度を教えてください。**

9% 否定的評価が減少。全体の傾向を勘案しても改善の成果が見えてきているものと考えられる。

**(19) 「本学での学び」についての満足度を教えてください。**

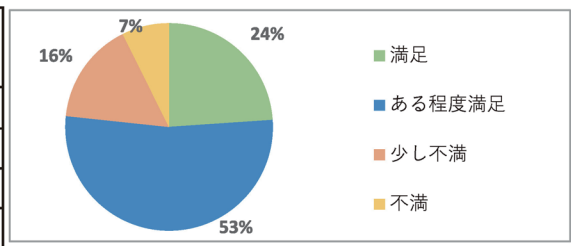
僅かに否定的評価が増加。全体の改善傾向からすると、改善について改めて検討する必要性が考えられる。具体的に改善した項目が多くあるにもかかわらず、全体の満足度が上がらないことを考えると、満足度に影響する鍵となる項目の改善が重要ではないかとも考えられる。特に、具体的な知識や技能に関連する項目での改善の一方で抽象的な能力や教養、倫理、判断力、職業能力などの面で大きな改善が見られていないことに注意する必要性が考えられる。

**(20) 「卒業後の進路について」についての満足度を教えてください。**

昨年度とほぼ変わらない数字が出ている。ただし、不満がある層の数字が救い切れていない可能性があり、回答率を上げて否定的評価を組み尽くしての検討が必要と考えられる。

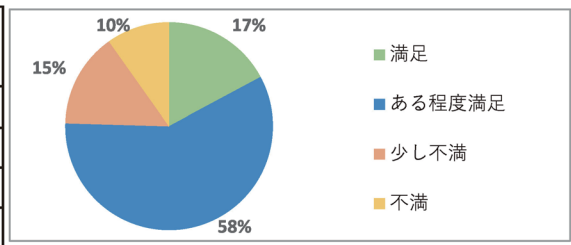
(15) 「教育設備・施設」についての満足度を教えてください。

満足	39
ある程度満足	86
少し不満	26
不満	12



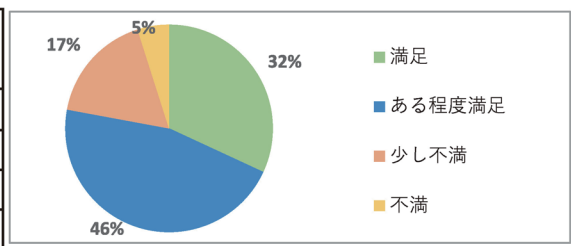
(16) 「福利厚生施設」についての満足度を教えてください。

満足	28
ある程度満足	95
少し不満	24
不満	16



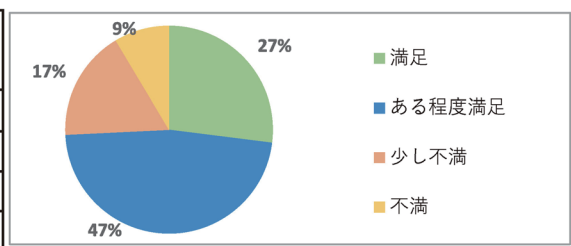
(17) 「教員の対応」についての満足度を教えてください。

満足	52
ある程度満足	75
少し不満	28
不満	8



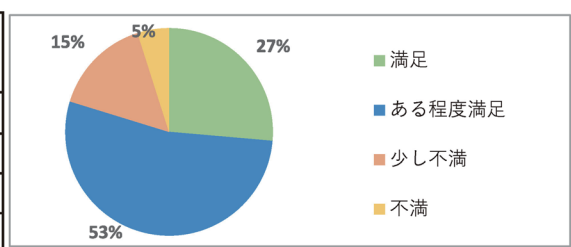
(18) 「職員の対応」についての満足度を教えてください。

満足	44
ある程度満足	77
少し不満	28
不満	14



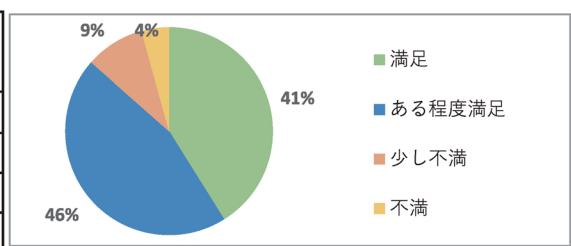
(19) 「本学での学び」についての満足度を教えてください。

満足	43
ある程度満足	87
少し不満	25
不満	8



(20) 「卒業後の進路について」についての満足度を教えてください。

満足	67
ある程度満足	74
少し不満	15
不満	7



# 帝京科学大学教学インスティテューショナル・リサーチ室規程

---

## (設置)

**第1条** 帝京科学大学(以下「本学」という。)に教学インスティテューショナル・リサーチ室(以下「教学IR室」という。)を置く。

## (目的)

**第2条** 教学IR室は、本学の建学の精神を踏まえた大学の基本理念を達成するため、現状の改善に繋がるような仮説のもとに調査項目を定め、学生の募集、入学、在学、卒業(退学・除籍)に至る学生の流動に関する情報等の総合的分析と分析資料の提供・助言等を行い本学の教育機能の向上を図り、教育活動の充実発展に寄与することを目的とする。

## (業務)

**第3条** 教学IR室は、次の業務を行う。

- 一 学生の学修時間・教育の成果など教育機能に関する情報の収集・分析・提供・管理
- 二 学修環境・学生生活・課外活動、学生相談、就職など人間形成に関する情報の収集・分析・提供・管理
- 三 教員の教育面における研究活動など大学活動に関する情報の収集・分析・提供・管理
- 四 学校基本調査、学生募集等広報に関する情報の収集・分析・提供
- 五 大学の中長期計画策定に関する情報の収集・分析・提供
- 六 その他、教学IR室の目的を達成するために必要な業務

## (組織)

**第4条** 教学IR室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 室長
- 二 室員(システム構築、分析担当)
- 三 専任事務職員
- 四 その他、学長が指名する者

## (室長)

**第5条** 室長は、教学IR室を統括する。

- 2 室長は、学長が専任教員の中から指名する。
- 3 室長の任期は2年とする。但し再任を妨げない。

## (室員)

**第6条** 室員は、専任教職員の中から兼務させる。

- 2 室員に、医療科学部学習支援教員を含めることができる。

## (教学 IR 室運営会議)

**第7条** 教学 IR 室に運営会議を置く。

- 2 運営会議は、学長、副学長、学長補佐、教務部長、学生部長、学部長、学科長、総合教育センター長、教職センター長、医学教育センター長、事務局長、課長及び東京西事務室長並びに第4条に規定する教学 IR 室教職員で構成し、第3条に規定する事項を協議する。
- 3 教学 IR 室運営会議は、学長が招集し、議長は学長をもって充てる。
- 4 議長に事故ある時は、学長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。
- 5 議長が必要と認めたときは、関係教職員を出席させ意見を聴くことができる。

## (専門部会)

**第8条** 教学 IR 室の専門的課題に対応するため、必要に応じて専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に関し必要な事項は、教学 IR 運営会議が定める。

## (事務)

**第9条** 教学 IR 室に関する事務は、事務局教務課が行う。

## (雑則)

**第10条** この規則に定めるもののほか、教学 IR 室に関して必要な事項は、別に定める。

附 則（帝京科教第 716 号 平成 27 年 8 月 22 日）

この規程は、平成 27 年 8 月 1 日から施行する。

附 則（帝京科総第 169 号 平成 30 年 3 月 7 日）

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（帝京科教第 278 号 平成 31 年 4 月 10 日）

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（帝京科教第 364 号 令和 2 年 6 月 24 日）

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

編集委員

内藤可夫、内藤隆宏、高金彰信、鉄井俊宏

帝京科学大学 IR 報告書 2021

---

発行日 2023（令和5）年3月31日

発行 帝京科学大学

〒120-0045 東京都足立区千住桜木二丁目2番1号

TEL 03-6910-1010（代）URL <https://www.ntu.ac.jp/>

編集 帝京科学大学 教学 IR 室「IR 報告書」編集委員会

印刷 株式会社たけまる

無断で複写・転載することを禁じます。

---



帝京科学大学  
教学IR室

